



四万十町

町内 **ぶら〜り** 散策

---

数 かず

神 こう

神野々にあるこの遠山地区は、希少植物の宝庫であるため、一部のエリアを町が購入し、住民有志でつくる「遠山を守る

なるのだが、この辺りは「遠山之村」として神野々の一部として前述の記録に書かれている。

旧神野々村は、戦国期の記録によると「神野村」と呼ばれていたようである。現在、神野々のバス停のあるT字路から奈路地区へ抜ける道に入ると「遠山」という地区に

なるとは、東又川に沿って東側（右岸）に拓けた平地の地区である。旧数家村も旧神野々村も、どちらも「村」としての歴史は古く、堂々の対等合併であつた。したがって現在も数家地区と神野々地区の独立性は高い。氏神様もそれぞれにあるが、もともとは仏教が主であつたこの地区に、明治政府の廃仏

毀釈政策によって神社ができたのだそう。



希少植物の宝庫である遠山を守る活動拠点

が暮らしている。数神地区には、現在62世帯124人が暮らしている。

会が管理している。ここでは、年に数回観祭会が行われ、県外から足を運ぶ人もいるということがある。

さて、数家には面白いお祭りがあった。毎年秋に行なわれていた「大黒祭」である。大黒祭は、元々この地区に伝わる由緒あるお祭り、祠の中にある掛軸に書かれた大黒様をお祀りするものであつた。数家を2つの地区に分けて行なつていたため、2つの大黒祭があつたのだが、1つは終戦前後辺りで途絶えたという。残つたもうひとつの大黒祭は、戦後の娯楽の無い時代の住民の楽しみとして残つた。そのユーモラスな楽しみ方が注目され、NHKで全国に放送されたこともあつた。しかしこれも、昭和55年頃には途絶えることになる。

さて、数神地区はもともと農業用水に困つていた地区である。神野々は、江戸期に入り数家より一足早く東又川に堰を築いて農業用水を確保し、続いて数家が同じく東又川の少し下流に堰を設けた。どちらも農業用水を確保してからの新田開発は盛んであつたという。

川に堰を築いて農業用水を確保し、続いて数家が同じく東又川の少し下流に堰を設けた。どちらも農業用水を確保してからの新田開発は盛んであつたという。

川に堰を築いて農業用水を確保し、続いて数家が同じく東又川の少し下流に堰を設けた。どちらも農業用水を確保してからの新田開発は盛んであつたという。

町のうごき	(5月31日)		前月比		出生 死亡 転入 転出			
	男	人口	男	女	男	女	計	計
	8,503	8,503	-7		5	14	19	17
	9,477	9,477	-13		5	17	14	15
	17,980	17,980	-20		10	31	33	32
	8,657	8,657	0		(5月中の届出)			
	窪川地域 12,597人	大正地域 2,580人			十和地域 2,803人			

四万十川の 水質状況	適正值(mg/l)		6月10日	
	項目	標準値	測定値	状況
リン酸	≤ 1.0	0.12		
硝酸	≤ 0.5	測定範囲以下		
アンモニウム	≤ 5.0	測定範囲以下		
アニオン活性剤	≤ 1.0	0.2		
化学的酸素要求量	≤ 10.0	測定範囲以下		

調査：大正（吾川）  
資料：四万十高校自然環境部